



2012年度第3四半期 決算説明資料

2013年1月31日
川崎重工業株式会社



目次



I. 2012年度第3四半期連結決算の概要

◇ 第3四半期決算実績 サマリー	1
◇ 第3四半期決算実績 セグメント別	2
◇ 前年同期比損益増減要因分析 ①	3
◇ 前年同期比損益増減要因分析 ②	4
◇ セグメント別決算実績	
船舶海洋	5
車両	6
航空宇宙	7
ガスタービン・機械	8
プラント・環境	9
モーターサイクル&エンジン	10
精密機械	11
◇ 財政状態およびキャッシュ・フロー	12

II. 2012年度通期業績見通し

◇ 連結受注高・売上高・利益見通し	13
◇ セグメント別業績見通し	14
◇ 研究開発費・設備投資・期末従業員数	15

第3四半期決算実績サマリー



(億円)

	2011年度 3Q累計	2012年度 3Q累計	増 減
受 注 高	7,821	8,024	+203
売 上 高	9,063	8,858	▲204
営業利益	472	229	▲243
経常利益	581	314	▲266
四半期純利益	336	193	▲143

前年同期比

【受注高】

車両、航空宇宙等での増加が精密機械等での減少を補い、全体では増加となった

【売上高】

航空宇宙等が増収となったものの、精密機械、船舶海洋等での減収が大きく、全体では減収となった

【利益】

航空宇宙等が増益となったものの、精密機械や車両等での減益・悪化により、全体では減益となった

売上加重 平均レート	ドル(¥/\$)	79.35	80.10
	ユーロ(¥/EUR)	111.83	103.00

第3四半期決算実績 セグメント別



(億円)

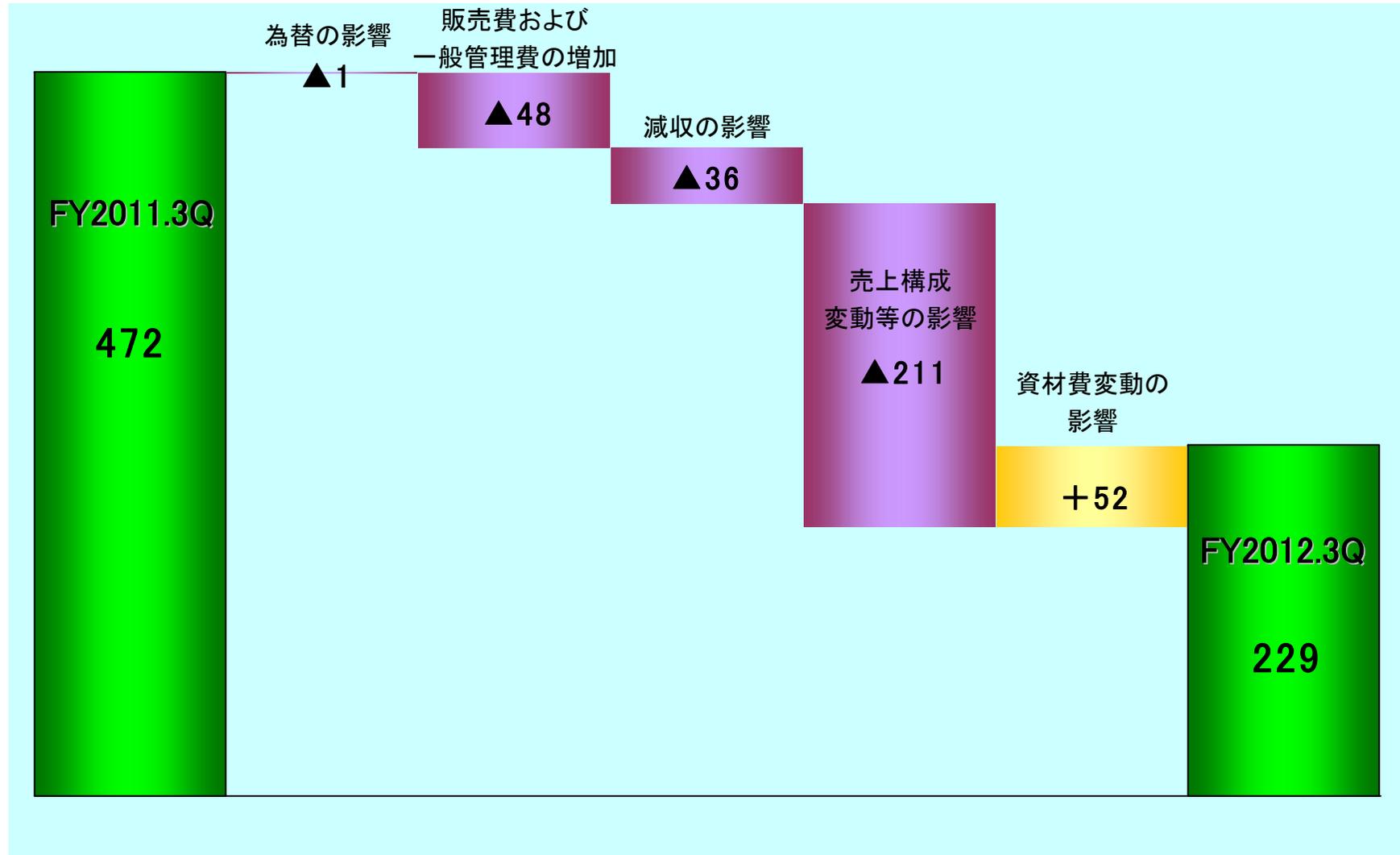
	受注高			売上高			営業利益		
	2011年度 3Q累計	2012年度 3Q累計	増減	2011年度 3Q累計	2012年度 3Q累計	増減	2011年度 3Q累計	2012年度 3Q累計	増減
船舶海洋	369	429	+60	871	686	▲184	41	44	+2
車 両	499	931	+432	946	941	▲4	49	▲5	▲54
航空宇宙	1,141	1,383	+242	1,385	1,658	+272	59	93	+34
ガスタービン・機械	1,233	1,316	+83	1,370	1,446	+75	80	46	▲33
プラント・環境	840	694	▲145	787	711	▲76	88	37	▲51
モーターサイクル&エンジン	1,542	1,588	+45	1,542	1,588	+45	▲45	▲20	+25
精密機械	1,311	784	▲527	1,290	938	▲352	207	48	▲159
そ の 他	882	895	+12	867	887	+20	33	15	▲18
調 整 額	—	—	—	—	—	—	▲40	▲29	+11
合 計	7,821	8,024	+203	9,063	8,858	▲204	472	229	▲243

注)「調整額」には、本社部門で発生する費用で社内管理上各部門への配賦を行わない費用等を含む

前年同期比損益増減要因分析 ①



【営業利益】 前年同期比 ▲243億円 (2011.3Q累計 472億円 ⇒ 2012.3Q累計 229億円)



前年同期比損益増減要因分析 ②



【営業外損益】 前年同期比 ▲23億円 (2011.3Q累計 108億円 ⇒ 2012.3Q累計 85億円)

・ 金融収支 (受取配当金を含む)	+2億円 (▲14億円 ⇒ ▲12億円)
・ 持分法による投資利益	▲0億円 (71億円 ⇒ 70億円)
・ 為替差損益	▲9億円 (27億円 ⇒ 17億円)
・ その他	▲15億円 (24億円 ⇒ 9億円)

【特別損益】 前年同期比 ▲6億円 (2011.3Q累計 ▲9億円 ⇒ 2012.3Q累計 ▲16億円)

・ 環境対策引当金繰入額	▲13億円 (0億円 ⇒ ▲13億円)
・ 減損損失	+7億円 (▲9億円 ⇒ ▲2億円) [※]

※ 一部の遊休資産等について、帳簿価額を回収可能価額まで減額した減損処理額

船舶海洋

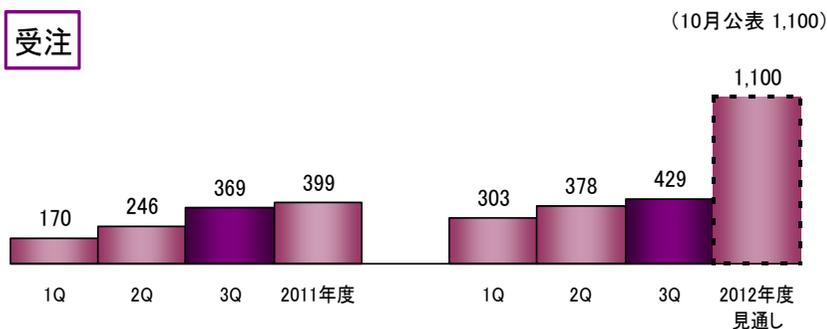
I. 2012年度第3四半期連結決算の概要



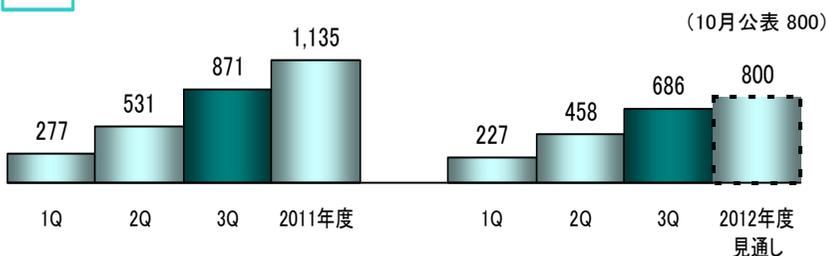
主要製品: LNG船、LPG船、VLCC、ばら積み運搬船、潜水艦、オフショア関連製品

(億円/各期の数値は累計)

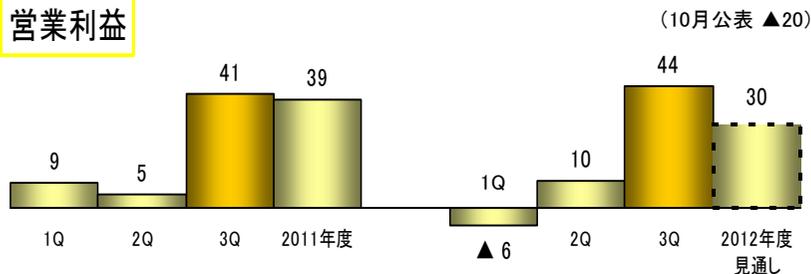
受注



売上



営業利益



◇ 当第3四半期実績 (前年同期比)

受注 LNG船等4隻を受注したことにより増加
 売上 大型ばら積み運搬船の建造量が減少したこと等により減収
 営業利益 減収となったものの、コスト削減や受注工事損失引当金の繰入が減少したこと等により増益

<新造船の受注・売上隻数> (隻)

	受注(3Q累計)		売上(3Q累計)	
	2011年度	2012年度	2011年度	2012年度
LNG船		1	2(1)	1(1)
小型LNG船	1		2(1)	1(1)
LPG船	1	1	2(1)	2(2)
ばら積み運搬船	6	2	21(14)	19(7)
潜水艦			2(2)	1(1)
合計	8	4	29(19)	24(12)

注) 括弧内は進行基準売上(内数)

◇ 2012年度見通し (10月公表比)

受注・売上 前回公表時から大きな変動はなく、見通しを据え置き
 営業利益 前提為替レートの見直しおよびコスト改善等により見通しを引き上げ

<参考> 海外での事業展開について

1995年12月、世界最大級の海運会社である中国遠洋運輸(集団)総公司(COSCO)との折半出資により設立したNACKSは、2008年に第二期拡張工事を完了し、COSCO等の中国船社に加えて日本・ヨーロッパ等の顧客向けに多種多様な商船を建造。また、NACKSがCOSCOグループの一員として参画し、2007年7月に設立したDACKSについては、当社もNACKSの親会社として支援を行って来たが、DACKSの競争力を一層強化し、さらなる発展を遂げるため、2012年4月、当社がDACKSに34%直接出資し、間接出資と併せ実質的に合計49%の出資とした。

さらに、油田開発・掘削のためのドリルシップやFPSO等の需要が急増しているブラジルにおいては、2012年5月、ドリルシップ建造等の合弁契約に調印し、エスタレーロ・エンセアーダ・ド・パラグアス(EEP)に30%出資した。

当社は、中国の2拠点での事業規模の拡大と収益性の維持向上ならびに第3の海外事業拠点としてのブラジルの新造船所の育成を図るため、国内拠点との協業体制を深化させ、各生産拠点の特長を活かした各種船舶の建造に積極的に取り組んでいく。

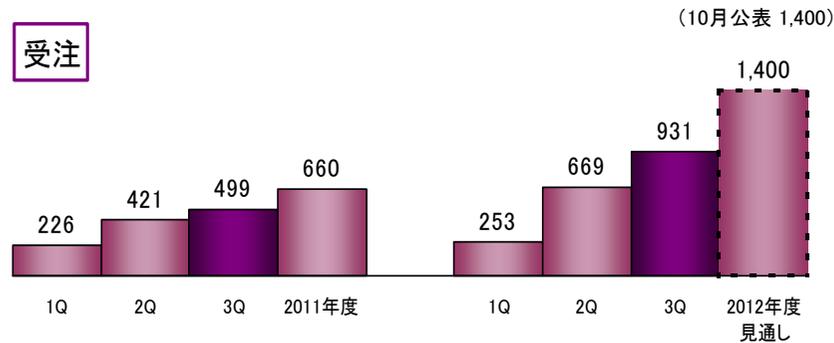
車 両



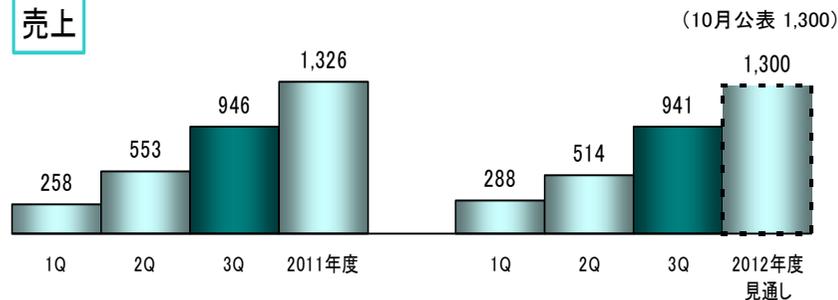
主要製品：各種電車(新幹線含む)、機関車、客車、ホームドア、ギガセル(二次電池)

(億円/各期の数値は累計)

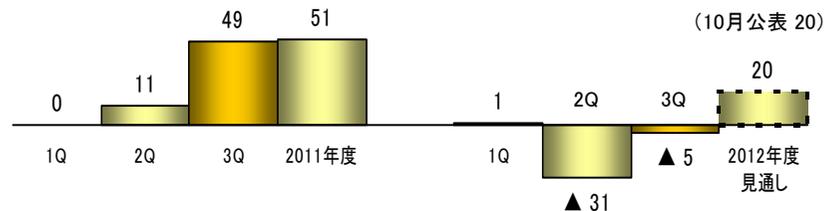
受注



売上



営業利益



◇ 当第3四半期実績 (前年同期比)

受注 台湾向け高速鉄道車両やシンガポール向け地下鉄電車の受注等、海外向け鉄道案件の増加

売上 海外向けが減少したものの、JR各社向けが増加したこと等により前年同期並みを維持

営業利益 海外プロジェクトに係る受注工事損失引当金の繰入等により損益悪化

◇ 2012年度見通し (10月公表比)

受注・売上・営業利益
前回公表時から大きな変動はなく、見通しを据え置き

<参考> 海外市場への取組状況について

北米市場：

- ・地下鉄、通勤車両を中心に受注活動中。
- ・中高速鉄道需要に対応する新規車両開発(efSET[®]、K-Star Express[®])でラインナップを拡充。
- ・カリフォルニア高速鉄道は、車両を含む機電システムの受注を目指し、日本連合を組み対応中。

アジア市場：

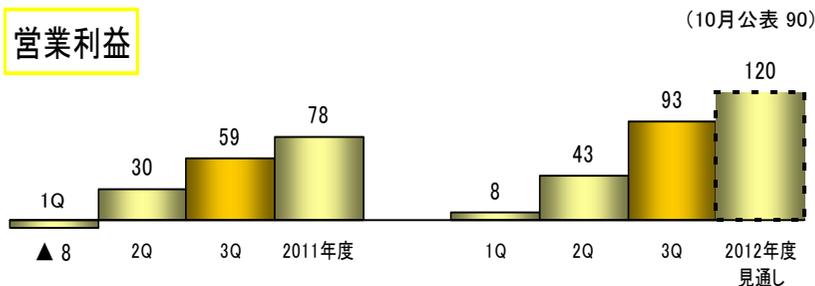
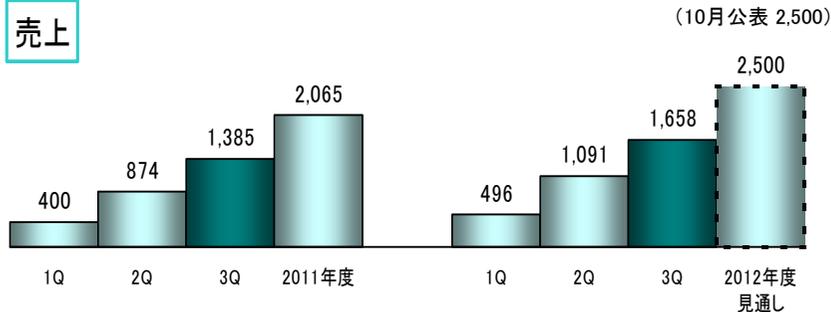
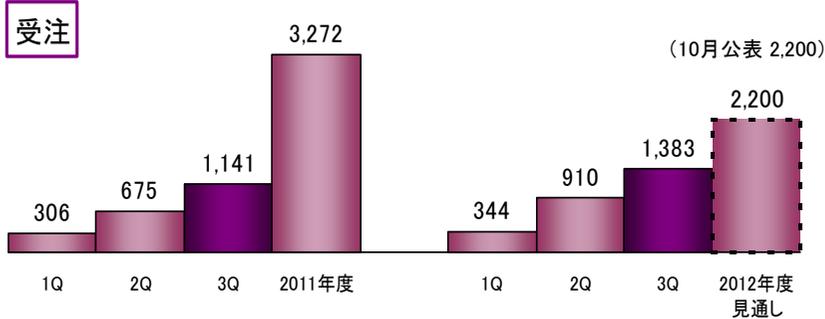
- ・アジア各都市で都市交通建設・拡充計画、インド等での高速鉄道計画があり活動中。
- ・台湾・シンガポール等当社の実績のある市場において、後続案件を確実に受注していく。
- ・インド西回廊(デリー～ムンバイ)にて、貨物専用新線敷設の計画あり(円借款案件)。電気機関車、保守基地設備等の受注を目指して活動中。

航空宇宙



主要製品： 防需航空機、民需航空機分担製造品(ボーイング・エンブラエル)、誘導機器システム

(億円/各期の数値は累計)



◇ **当第3四半期実績** (前年同期比)

受注 防需案件およびボーイング社向け777・787分担製造品の増加
売上 C-2輸送機等防需案件の増加に加え、ボーイング社向け777・787分担製造品の増加等により大幅な増収
営業利益 増収およびコスト削減等により増益

< 民需分担製造品の売上機数 > (機)

	2011年度 3Q累計	2012年度 3Q累計
Boeing 777	63	66
Boeing 767	19	19
Boeing 787	18	41
Embraer170/175	10	11
Embraer190/195	73	55

◇ **2012年度見通し** (10月公表比)

受注・売上 前回公表時から大きな変動はなく、見通しを据え置き
営業利益 前提為替レートの見直しおよびコスト改善等により見通しを引き上げ

<参考> **主要プロジェクトの状況について**

防需航空機分野：

2012年3月にC-2輸送機の初回量産契約を受注した。今後、P-1固定翼哨戒機とともに、着実に量産に取り組んでいく。

民需航空機分野：

ボーイング777

ボーイング社の月産製造レート増加に伴い、当社の月産製造レートも7機から8.3機に増加している。

ボーイング787

2011年9月にボーイング社からエアラインへの引渡しが行われ、11月1日より定期運航が開始された。当社は、名古屋第一工場にて今後本格化する増産のための体制を整備している。

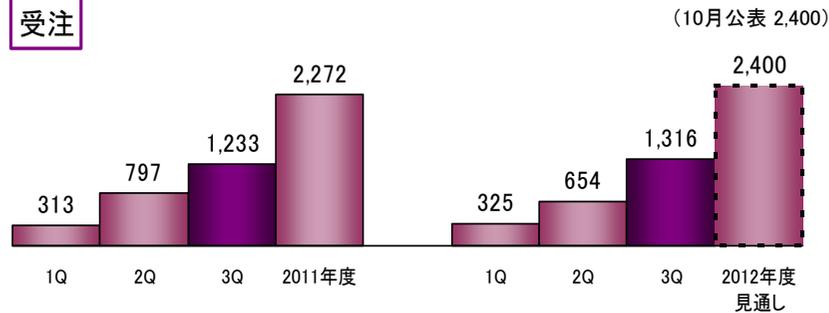
ガスタービン・機械



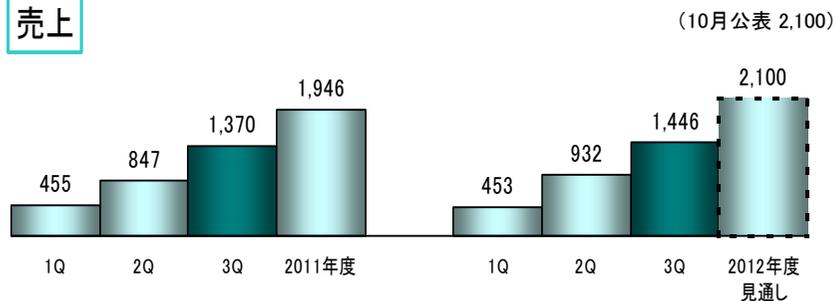
主要製品： 航空機用エンジン、産業用ガスタービン・コージェネレーション、ガスエンジン、ディーゼル機関、陸用・船用タービン、空力・水力機械

(億円/各期の数値は累計)

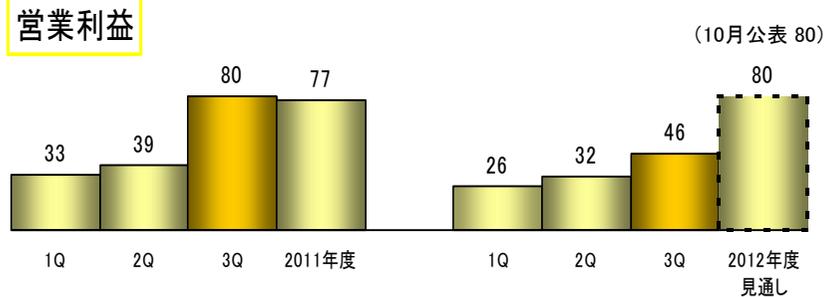
受注



売上



営業利益



◇ 当第3四半期実績 (前年同期比)

受注 航空エンジン分担製造品等の増加
 売上 陸用タービン設備等が減少したものの、産業用ガスタービンやガスエンジン等の増加により増収
 営業利益 増収となったものの、研究開発費の増加等により減益

◇ 2012年度見通し (10月公表比)

受注・売上・営業利益
 前回公表時から大きな変動はなく、見通しを据え置き

<参考>

航空エンジン 主要参画プロジェクト概要

	Trent1000	TrentXWB	PW1100G-JM
主な搭載機	ボーイング787	エアバスA350	エアバスA320neo
参画方式	RRSP方式(※)	RRSP方式(※)	国際共同事業
当社参画比率	約8.5%	約7%	約6%
担当部位	中圧圧縮機(IPC)モジュール	中圧圧縮機(IPC)モジュール	ファン/低圧圧縮機部の主要部品
進捗状況	開発は完了し、2010年度量産開始 今後機体の生産スケジュールに合わせて順次納入予定	2011年3月、IPCモジュールを ロールス・ロイス社に初出荷	開発・生産への参画を決定 現在設計作業中

(※) Risk & Revenue Sharing Partner方式

2012年9月に竣工した西神第4工場で、生産の本格化に向けた準備を進めている。

エネルギー・環境関連製品

2012年2月に開発を完了した30MW級の純国産高効率ガスタービン「L30A」が順調に稼働中。さらに、マレーシアにガスタービンオーバーホール工場を開設、サービス体制を整備している。

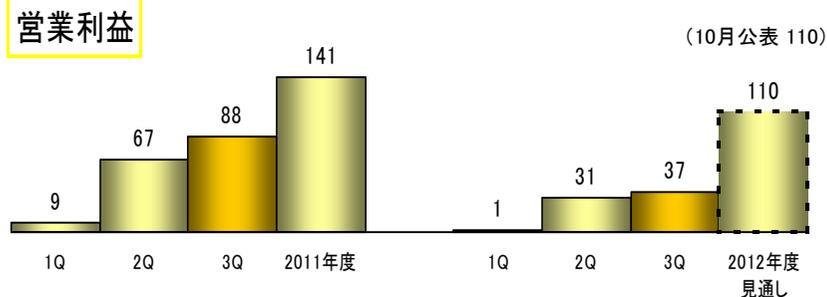
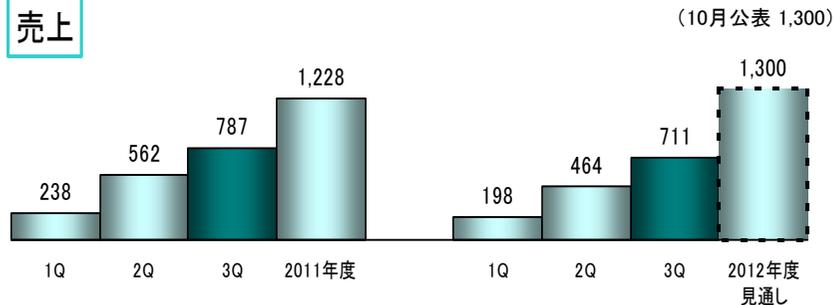
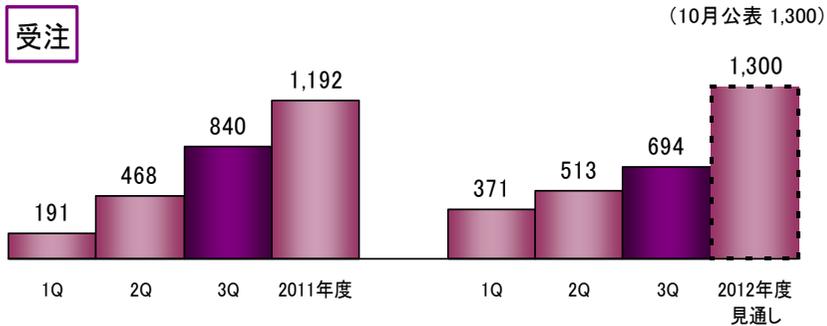
また、2011年9月に受注したグリーンガスエンジン14基からなる発電容量11万kWのガスエンジン発電所は、2012年8月よりフル稼働を開始。2011年12月に受注したシンガポールLNGターミナル向けガスエンジン2基を、2012年12月に海外向けとして初めて納入した。当社は今後とも、国内外市場においてエネルギー・環境関連事業を積極的に展開していく。

プラント・環境



主要製品： 産業用プラント(セメント、化学等)、発電プラント、LNG・LPGタンク、ごみ焼却プラント、掘削機、破碎機

(億円/各期の数値は累計)



◇ 当第3四半期実績 (前年同期比)

受注 国内向けLNG貯槽案件やごみ焼却プラントの減少等

売上 搬送設備・ごみ焼却プラント等は増加したものの、海外向け大型プラントの減少等により減収

営業利益 減収および利益率低下により減益

◇ 2012年度見通し (10月公表比)

受注・売上・営業利益
前回公表時から大きな変動はなく、見通しを据え置き

<参考> 環境・エネルギー案件の受注について

- ・世界的なエネルギー需要の高まりからFloating LNGの建設が数多く計画されているが、当社のこれまでの陸用・船用ボイラの納入実績(1,200缶以上)や洋上運転に耐える技術力が高く評価され、2011年7月、フランス/Technip社より、オランダ/Shell社がオーストラリアで建設する世界初のFloating LNG用ボイラ7缶を受注した。
- ・2012年4月、オーストラリアのイクスLNGプロジェクト向け低温タンク4基を受注した。イクスLNGはその7割程度を日本向けに出荷することが確定するなど、わが国のエネルギーの安定供給および天然ガス供給元の多様化の観点から非常に重要であり、当社は、大型LNGタンクの豊富な実績とEPC技術力を以って本プロジェクトを支援していく。

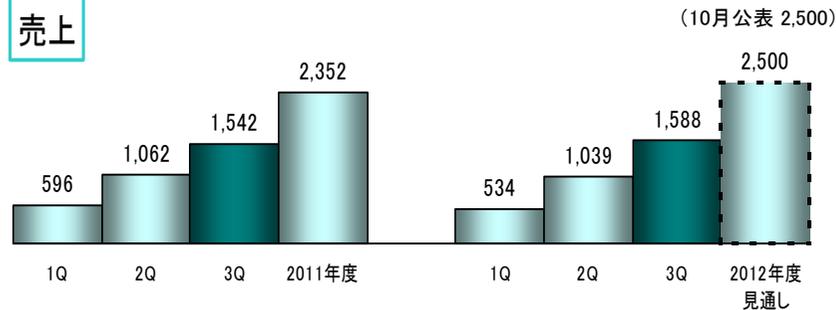
モーターサイクル&エンジン



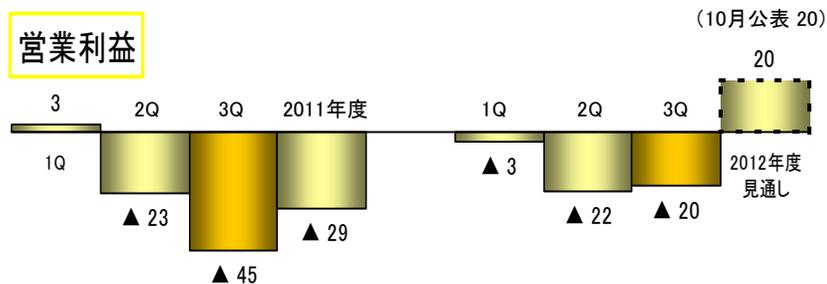
主要製品： 二輪車、四輪バギー車(ATV)、多用途四輪車、パーソナルウォータークラフト、汎用エンジン

(億円/各期の数値は累計)

売上



営業利益



<コンシューマー向け製品 地域別売上(卸売)台数・金額> (千台、億円)

	2011年度				2012年度			
	3Q累計		通期		3Q累計		通期見通し	
	台数	金額	台数	金額	台数	金額	台数	金額
国内	10	91	14	121	10	91	14	121
北米(カナダ含む)	69(38)	442	121(69)	780	73(46)	465	119(74)	745
欧州	31	262	57	422	30	212	58	399
新興国等	234	535	309	710	257	595	387	878
合計	344	1,330	501	2,033	370	1,363	578	2,143

注1)二輪車、四輪バギー車(ATV)、多用途四輪車、パーソナルウォータークラフト(「ジェットスキー」)及びこれらの関連製品を含む。

注2)括弧内は二輪車分を示す。(内数)

◇ 当第3四半期実績 (前年同期比)

売上 欧州向け二輪車販売が減少する一方、米国向けやインドネシアを中心とする新興国向け二輪車の増加等により増収

営業利益 増収および収益性の向上等により損益改善

◇ 2012年度見通し (10月公表比)

売上・営業利益 前回公表時から大きな変動はなく、見通しを据え置き

<参考> 新興国での事業展開について

- ・新興国市場での事業基盤をより強固なものにするため、2012年9月7日にインドネシアで新工場を着工。タイの工場拡張も計画通り進捗している。
- ・2013年のニューモデルとして、「Ninja 250/300」、「Ninja ZX-6R」、「Z800」を発表。中でも、「Ninja 250/300」を世界戦略車として位置づけ、2012年8月1日に、主力市場であるインドネシアで世界に先駆けてローンチした。
- ・新興国のレジャー用オートバイ市場は堅調であり、当社の新興国での2012年の販売は前年を上回った。

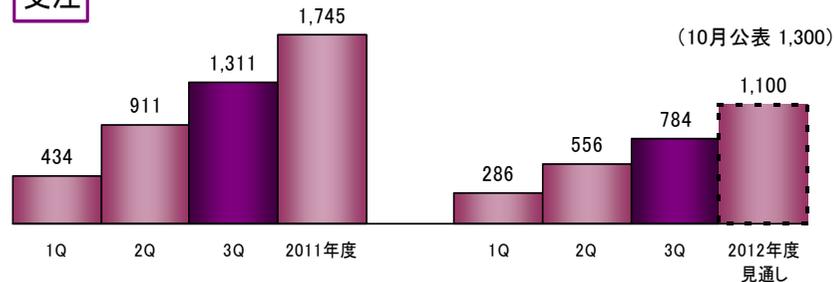
精密機械



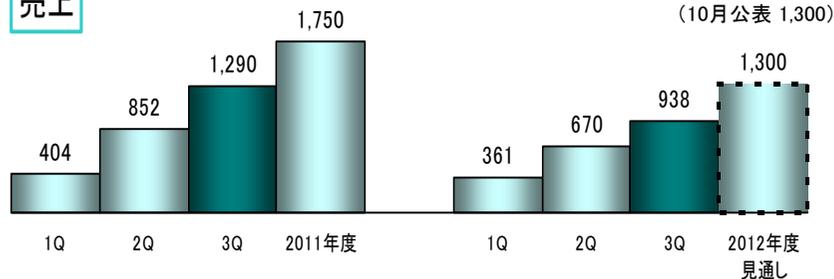
主要製品：油圧機器(ポンプ・モーター・バルブ)、陸用油圧装置、船用油圧装置、精密機械・機電製品、産業用ロボット

(億円/各期の数値は累計)

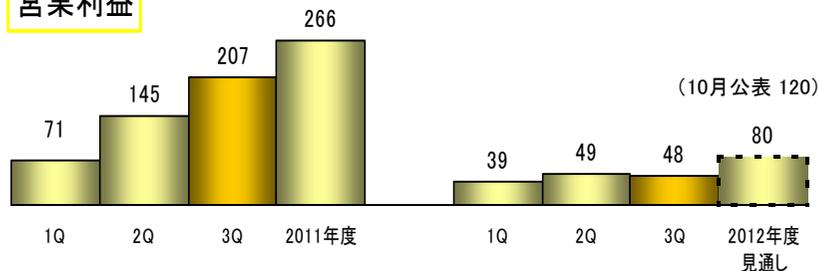
受注



売上



営業利益



◇ 当第3四半期実績 (前年同期比)

受注・売上 中国を中心とする新興国での建設機械向け油圧機器の大幅な減少

営業利益 減収に加え、過年度の設備投資等に伴う固定費の増加等により大幅な減益

◇ 2012年度見通し (10月公表比)

受注 中国を中心とする新興国での建設機械向け油圧機器の回復遅れにより、見通しを引き下げ

売上 前回公表時から大きな変動はなく、見通しを据え置き

営業利益 売上構成の変動および生産量減少の影響等により、見通しを引き下げ

<参考> 新興国での事業展開について

2006年8月、中国・蘇州の現地法人にて油圧機器の生産を開始。さらに浙江省にも合併で油圧機器の製造会社を設立し、2010年4月より操業を開始。上海に設立した販売会社を通じ、現地生産会社の製品を中国全土の顧客に供給している。

その後も蘇州現地法人での新工場建設や、浙江省合併会社での生産工場拡張、上海販売会社でのアフターサービス拠点設立等、中国において強固な事業基盤を確立。なお、足元の中国建機市場の停滞は当面続くという見方が強くなっており、市場動向については引き続き注視していく必要があるが、中国建機市場は、今後もエネルギー、交通関連、都市開発など数多くのインフラ需要が見込まれ、中長期的にはさらなる伸長が期待されている。

一方、中国市場に次ぐ規模に成長するものと見込まれているインドにおいても、顧客からの現地生産要請にこたえるため、2012年2月にバンガロール市内に現地企業のWipro社と合併で、建設機械向け油圧機器の製造・販売・サービス会社を設立した。

財政状態およびキャッシュ・フロー



【財政状態】

(億円)

	2011年度		2012年度 3Q末
	3Q末	4Q末	
総資産	14,044	13,621	14,944
自己資本 (自己資本比率)	3,097 (22.0%)	3,060 (22.4%)	3,110 (20.8%)
有利子負債残高 (NET有利子負債)	4,916 (4,557)	4,071 (3,728)	5,871 (5,563)
NET D/Eレシオ	147.1%	121.8%	178.8%

注) 有利子負債残高にはリース債務を含む

【キャッシュ・フロー】

(億円)

	2011年度 3Q累計	2012年度 3Q累計
営業キャッシュ・フロー	▲161	▲1,042
投資キャッシュ・フロー	▲514	▲661
フリーキャッシュ・フロー	▲675	▲1,703
財務キャッシュ・フロー	612	1,684

連結受注高・売上高・利益見通し



(億円)

	2011年度 実績	2012年度見通し		増 減	
		10月公表	今回公表	前年度比	10月公表比
受注高	13,118	13,500	13,300	+182	▲200
売上高	13,037	13,000	13,000	▲37	0
営業利益	574	360	400	▲174	+40
経常利益	636	500	500	▲136	0
当期純利益	233	300	300	+67	0

10月公表比

【受注高】

中国を中心とする新興国での建設機械向け油圧機器の回復遅れによる精密機械での減少により、見通しを引き下げ

【売上高】

前回公表時から大きな変動はなく、見通しを据え置き

【利益】

・精密機械での減益はあるものの、前提為替レートの見直しによる船舶海洋、航空宇宙等での改善・増益により、営業利益見通しを引き上げ

・ただし、経常利益および当期純利益については、これまで進めてきた為替予約により、前提為替レート見直しの効果が限定的であるため、見通しを据え置き

実績/前提 レート	ドル(¥/\$)	79.40	80	85
	ユーロ(¥/EUR)	109.71	100	110

注) 前提レートは見通し公表時の為替エクスポージャーに対して適用

(参考) 為替影響額
1円の変動による影響額 (億円)

	営業利益	経常利益
ドル	14(30)	0(16)
ユーロ	0(2)	0(0)

※括弧内は10月公表時

セグメント別業績見通し



(億円)

	受注高			売上高			営業利益		
	2011年度 実績	2012年度見通し		2011年度 実績	2012年度見通し		2011年度 実績	2012年度見通し	
		10月公表	今回公表		10月公表	今回公表		10月公表	今回公表
船舶海洋	399	1,100	1,100	1,135	800	800	39	▲20	30
車 両	660	1,400	1,400	1,326	1,300	1,300	51	20	20
航空宇宙	3,272	2,200	2,200	2,065	2,500	2,500	78	90	120
ガスタービン・機械	2,272	2,400	2,400	1,946	2,100	2,100	77	80	80
プラント・環境	1,192	1,300	1,300	1,228	1,300	1,300	141	110	110
モーターサイクル&エンジン	2,352	2,500	2,500	2,352	2,500	2,500	▲29	20	20
精密機械	1,745	1,300	1,100	1,750	1,300	1,300	266	120	80
そ の 他	1,222	1,300	1,300	1,232	1,200	1,200	38	30	30
調 整 額	—	—	—	—	—	—	▲88	▲90	▲90
合 計	13,118	13,500	13,300	13,037	13,000	13,000	574	360	400

注)「調整額」には、本社部門で発生する費用で社内管理上各部門への配賦を行わない費用等を含む

研究開発費・設備投資・期末従業員数



(億円・人)

	2011年度 実績	2012年度 見通し	増 減
研究開発費	399	450	+51
設備投資	639	750	+111
減価償却費	489	520	+31
国内	24,770	25,400	+630
海外	8,497	9,100	+603
期末従業員数	33,267	34,500	+1,233

※ 2012年10月31日公表値からの修正はありません

世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する “Global Kawasaki”

ご注意

本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、現時点で把握可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの業績見通しのみにより依拠して投資判断を下すことはお控え下さるようお願い致します。実際の業績は、外部環境及び内部環境の変化によるさまざまな重要な要素により、これらの見通しとは大きく異なる結果となり得ることを御承知おき下さい。実際の業績に影響を与える重要な要素には、当社の事業領域をとりまく経済情勢、対米ドルをはじめとする円の為替レート、税制や諸制度などがあります。